

特集

夜間頻尿の疫学とリスク因子

舩森直哉

札幌医科大学医学部泌尿器科学講座

Key Words 夜間頻尿, 疫学, リスク因子

夜間頻尿に関する疫学において一貫して明白なことは、夜間頻尿は男女や年齢層を問わず頻度の高い下部尿路症状であること、その頻度は年齢とともに急上昇すること、QOLに悪影響を与えること、高血圧や糖尿病などのさまざまな因子と関係があることである。夜間頻尿は睡眠障害、転倒、うつなどを悪化させるリスク因子である。夜間頻尿と死亡の関係が推測されているが、確定的ではない。

はじめに

夜間頻尿とは、夜間に排尿のために1回以上起きなければならないという愁訴である。夜間頻尿診療ガイドライン第2版（以下、第2版）では、2009年4月の初版¹⁾刊行以降に報告された重要論文を加えて、疫学の章をアップデートした。本稿では、第2版に記載された論文を中心に夜間頻尿の疫学やリスク因子について概説する。

夜間頻尿に関する 大規模疫学調査

第2版では、夜間頻尿に関する大規模疫学調査を大きく2つのカテゴリーに分けて記載している。1つは、解析対象集団が1,000例以上で、主にcommunity-based studyあるいはpopulation-based study（40論文）、もう1つは、主に一般住民を対象に夜間頻尿のリスク因子や夜間頻尿が及ぼす影響を検討した研究結果（66論文）である。いずれのカテゴリーにも、日本人を対象とした重要な論文は対象が1,000例に満たなくても含めている。前者のうち横断研究と縦断研究からは、それぞれ夜間頻

Naoya Masumori（教授）